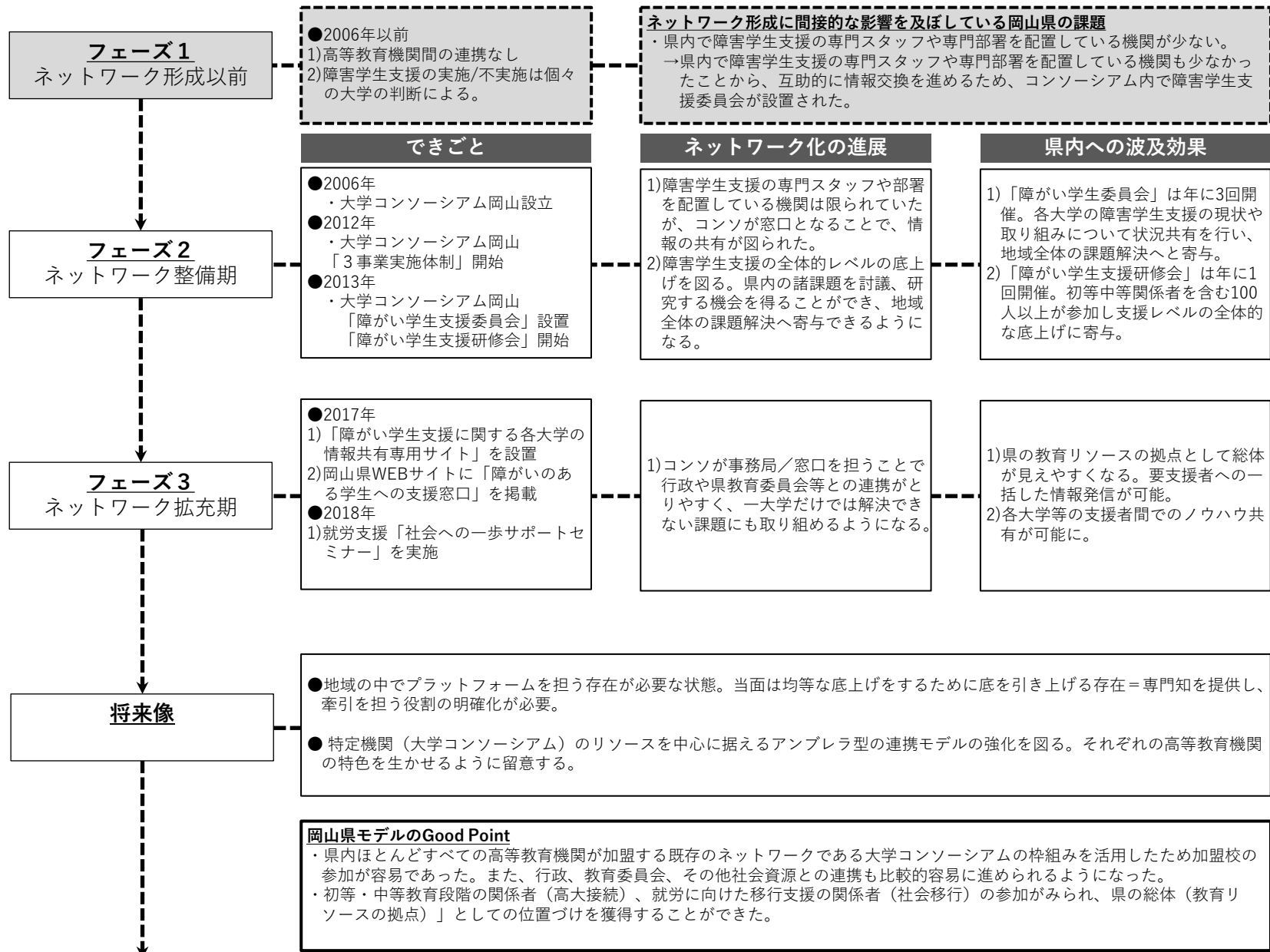


# 岡山県 障害学生支援ネットワーク形成の流れ ◆ 《大学コンソーシアム活用型・アンブレラ型》

面積：7,114.32km<sup>2</sup> 総人口1,891,346人(2019年10月現在) 国立大1、公立大2、私立大14、公立短大2、私立短大7、国立高専1



## 岡山県における障害学生支援ネットワーク形成の流れ

### 1. 県概要

- ・岡山県人口：約 180 万人（岡山市：72 万人、倉敷市：48 万人など）
- ・高等教育機関：18 機関（国立校 1 校、県立校 2 校、私立校 14 校、高等専門学校 1 校）  
→多くが岡山市と倉敷市にある。他と比較すると国立校 1 校の規模が大きい。
- ・大学コンソーシアム岡山：2006 年に設立。2012 年より 3 事業（大学教育事業・社会人教育事業・産官学連携事業）で取組を行っている。

### 2. ネットワークの形成にあたって

- ・県内で障害学生支援の専門スタッフや専門部署を配置している機関が少ない。  
→県内の大学を並列（互助的）で扱うのは実態として難しく、自然と専任教員を配置している国立校の負担感が高まる。
- ・2013 年に大学コンソーシアム岡山市内に障がい学生支援委員会が設置された。

### 3. ネットワークの運用の状況

- ・障がい学生支援委員会の設置以降、年に 1 回「障がい学生支援研修会」と年 3 回「障がい学生支援委員会」を定期的で開催している。
  - 「障がい学生支援研修会」では、参加者は 100 人以上と間口を広げて障害学生支援の全体的レベルの底上げをはかっている。
  - 「障がい学生委員会」では、各大学の障害学生支援の現状や取り組みについて状況共有を行っている。各校担当職員の専門的知識が不足していることも多く、実態として国立校専任教員が理念的な部分も含めて、基礎的事項に関して情報提供することが多い。また、県内の障害学生支援を取り巻く諸課題を吸い上げながら研究を進めることで地域全体の課題解決へと寄与している。
- ・大学コンソーシアム岡山が事務局/窓口を担う。
  - ネットワーク運営に関する負担の軽減

### 4. 県ネットワークの意義・メリット

- ①県内の関係者全体が助かる。
  - 各大学等の支援者間でのノウハウ共有
- 例) 大学コンソーシアム岡山の事業 WEB サイトの中に「障がい学生支援に関する各大学の

情報共有専用サイト」(2017年度～)

→大学コンソーシアム岡山が事務局/窓口を担うことで、行政や県教育委員会等との連携がお互い取りやすく、1つの大学の動きでは解決ができない、地域全体の課題にも取り組みやすい。

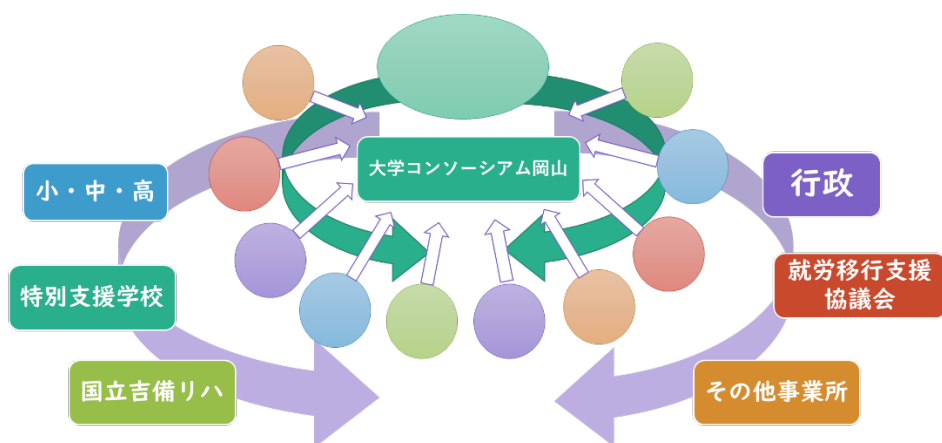
例) 高大接続：岡山県 WEB サイトに私立大学を含んだ「障がいのある学生への支援窓口一覧(入試 or 修学支援)」(2017年度～)を掲載している。

例) 就労支援：「社会への一歩サポートセミナー」(2018年度～)、対象を大学生に限定せず、幅広く対象とすることで県内の就労移行支援事業所等の利用者にもメリットが生まれる。

②「県の総体(教育リソースの拠点)」として見えることの価値

→1 大学の意見では参考意見に過ぎないが、連合していくことでアプローチがしやすい。

例) 大学における重度訪問介護対象者の修学支援調査・結果まとめ(2018年)を行い、公的福祉サービスの積極的な運用に関して市町村への提言・情報提供を行うことができた。



岡山県ネットワーク「大学コンソーシアム活用型」「アンブレラ型」モデル図

公開日：2020年3月  
発行：京都大学 HEAP